

株式会社 千葉銀行

メディアコミュニケーション学部情報文化学科
2年 相田 有実子

1. 実習企業（団体）の概要

昭和18年3月、千葉合同銀行・小見川農商銀行・第九十八銀行が合併、誕生した。千葉県を主要営業基盤とする地方銀行。千葉県経済の発展とともに成長を遂げ、預金残高10兆9,669億円、貸出金残高8兆9,943億円は、国内地方銀行において第2位の規模である。（2016年9月30日現在）

- ・設立 1943（昭和18）年3月 ・資本金1,450億円 ・総資産13兆4,969億円
- ・所在地 千葉県千葉市中央区千葉港1-2 ・従業員数4,443人
- ・取締役頭取 佐久間 英利

2. 実習内容

銀行の役割について、銀行の業務についてのお話を伺いました。お客様にお勧めする商品についてどのようにお勧めするのかをグループワークで意見を出し合い、アプローチの仕方をまとめました。また、入行8年目の社員さんとの座談会を行い、実際に体験した成功談や失敗談について聞くことができました。

他にも、お金を融資するにあたり、そのお客様がきちんとお金を返金して下さるのかを計算し、信用するにあたるかなどを検証するという審査を疑似体験することができました。

3. 実習の成果

授業で学んでいた貸借対照表や、損益計算書などが実習の一部として例に挙げられ、もっとしっかりと見方を学ばなければならないと思いました。貸借対照表や損益計算書を見ることによって、会社によっては何年後に倒産するだろうということが見えてくるということ以外にも、償還年数を求められるということを知りました。しっかりとそれらの表を読み取ることで会社の未来が見えてくるかもしれないので、読み解けるようになりたいと思います。

営業経験のある方々のお話を聞いていると、個人のお客様とたくさん世間話をして打ち解ける、信頼される存在になることが大切だと伺いました。そのためにはコミュニケーション能力が必須だと思います。誰とでも話せるような人物になること、何ともない世間話や、大切な融資などの相談ができる存在になるためにもコミュニケーションする力、話す力、聞く力を身に付けていきたいと思いました。

また、窓口にいる社員さんは、お客様に第一印象でどのような人なのか判断されてしまうので、好印象を持たれるような態度、表情でいることが大切だと学びました。

4. 実習の感想

千葉銀行のインターンシップに参加して、「銀行」という会社は「証券」や「保険」などの会社とも繋がっており、連携することもあるということを改めて知ることができました。自分の銀行に預けてあるお金を、ただ放置して少しの利子を得るのではなく株をやってみたりと、使い方がしだいによっては2倍になったりあまり変動しなかったりするということがとても魅力を感じました。

銀行にはお金を預けるだけでなく、地主からの土地の有効利用の相談や、遺言信託などたくさんの人がお金のことで相談に来客するということを知りました。また、銀行はお金をどのように有効利用するのか、金額を今の倍にするためにはどのようにすればいいのか、自分の持っている土地を貸し出すのに、どのような人に貸せばいいのか、人と人をつなげてくれます。お客様のニーズに合わせたものを提供するというのは難しいことだと思いますが、それをうまくやり取りされていてすごいと思いました。今回、銀行という言葉から想像できなかった仕事までされているということを知ることがで

き、ますます銀行業界に魅力を感じたので、業界や会社のことについてもっと詳しく調べていきたいです。

— 実習プログラム —

日数	実習日	実習内容
1日目	2月21日(火)	千葉銀行について知る(講義)、グループワーク、若手社員による座談会
2日目	2月22日(水)	法人営業部について(講義)、企業分析の疑似審査体験、
3日目	2月23日(木)	職場見学、マーケット業務について(講義)、証券会社について(講義)、就職活動に向けてアドバイス(講義)